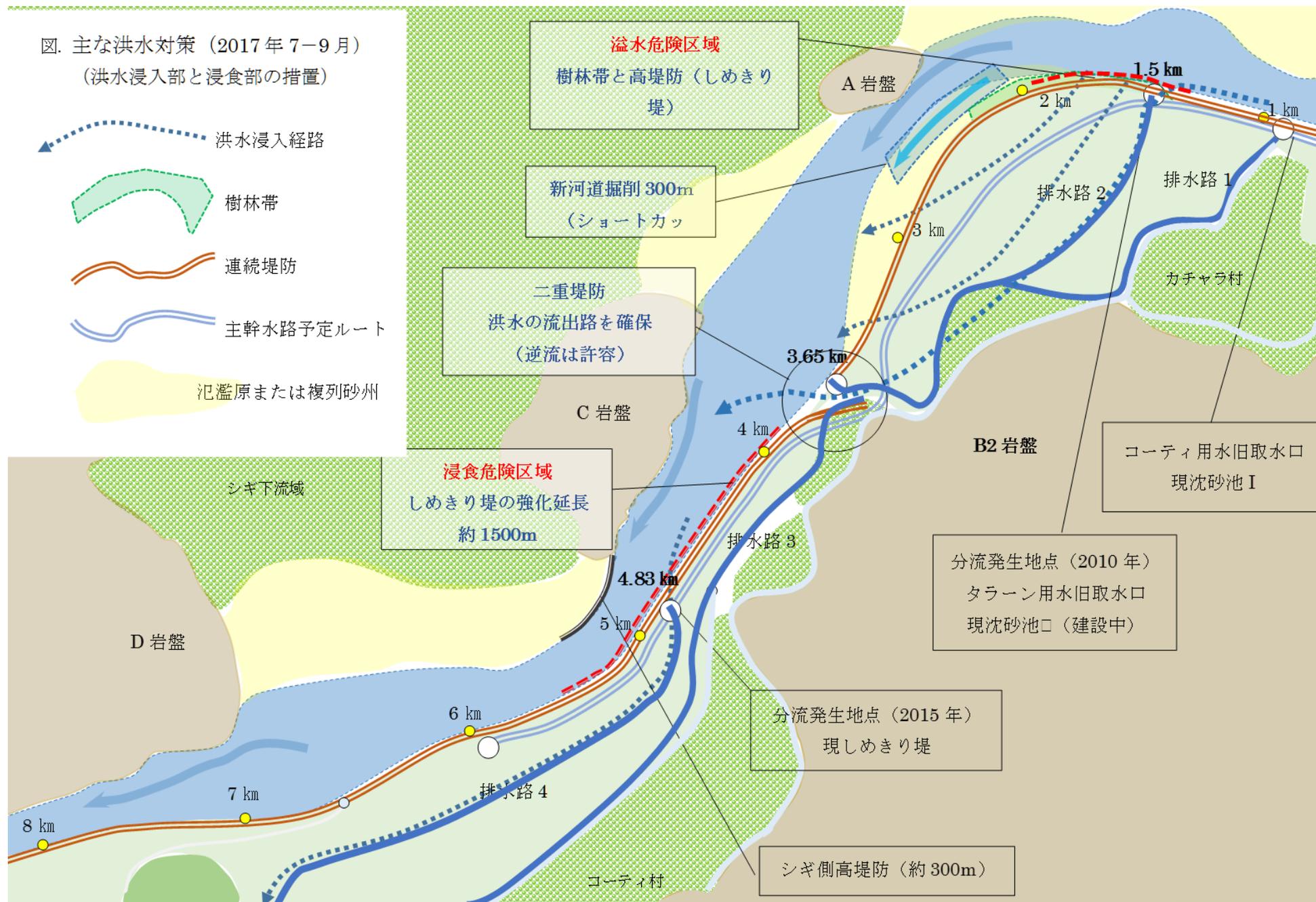


当面の洪水対策。やっと調査を終え、用水路ルート、護岸線が決定されました。改めて、河は化け物だと思いました。護岸の焦点は、1500m 地点の洪水流入路閉塞（しめきり堤）、4~5 km地点の浸食防止。



閉塞された 1500m 地点の分流。2 か月を経過して浸透水が減り、河床の状態を確認できるようになっている。入口部は浅い扇状で、実際には大小の河道が絡みつくように平たく不規則な河床を形成している。一連の閉塞によって、コーティ・タラーン村周辺は著しく湿地が乾燥した。2017 年 06 月 29 日



造成中の緩衝池（約 40m 四方）を下流側から見る。2017 年 7 月 2 日



用水路

造成中の池Ⅱ（緩衝池）

造成中の 1500m 地点特別堤防。主に溢水を意識したもので、洪水を真正面から受ける地点。長さは最終的に約 1500m、今夏は約 250m を造成。2017 年 7 月 2 日



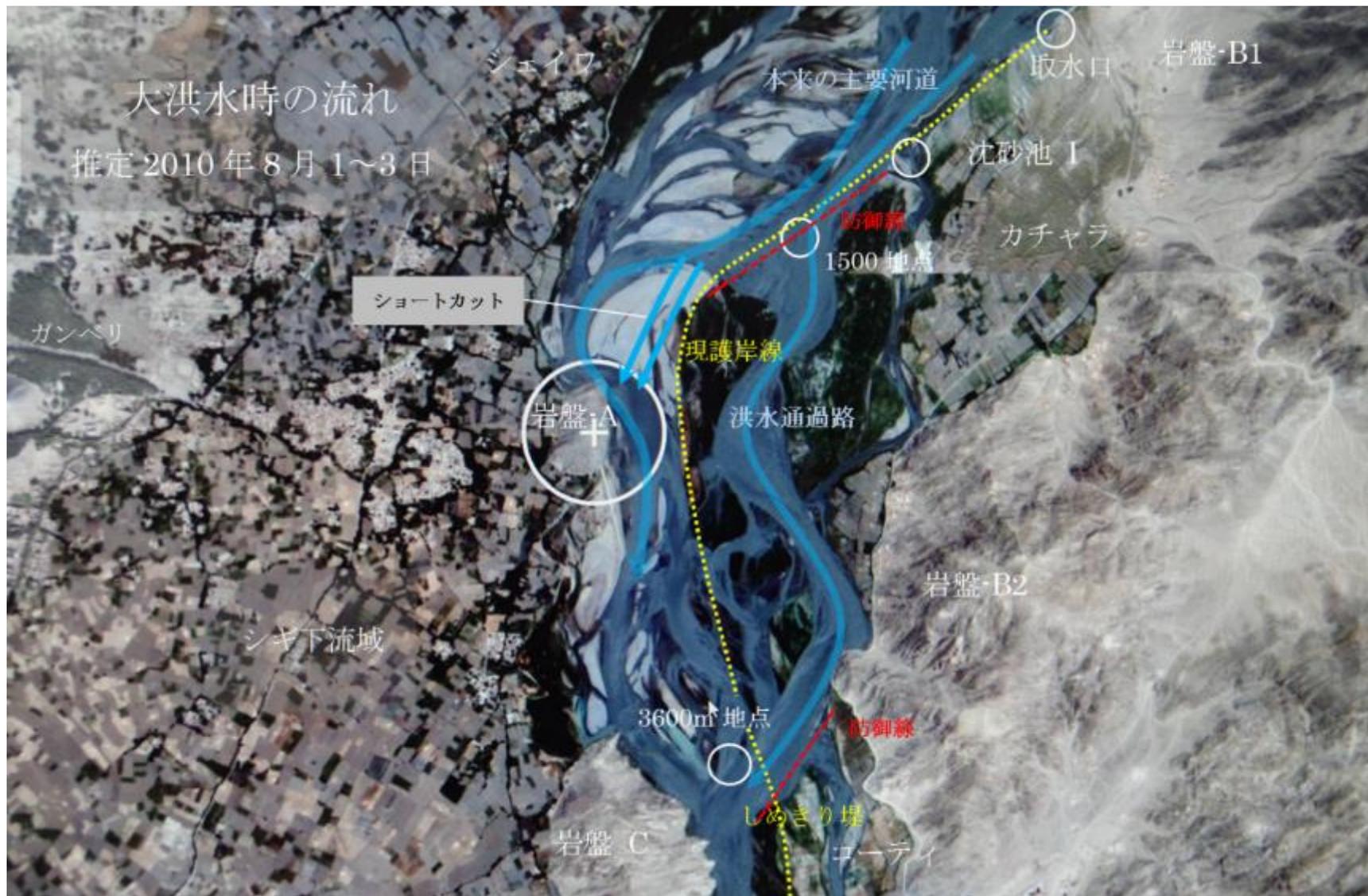
洪水・浸入部全体を下流側から見る。1500m 地点からのものが低水位河道をなしており、増水期には幅約 500m の浅い河道を作っていた。2017 年 7 月 2 日



新河道の掘削造成（ショートカット）。閉塞した分の水量を流すべく、川側に「代行河道」を作る。1500m 地点付近は砂利堆積で河床が高くなっており、河道閉塞は高水位を誘発する。要するに、水の逃げ道を作るということだ。掘削幅約 50m、長さ 250m、掘削で得る膨大な砂利は、堤防工事に使われる。2017 年 7 月 2 日



大洪水（2010年）の流れ。こんなものを相手にしていたのだ。地図はラジオ・ガーデンの配信で、事務局ボランティアスタッフの末本さんが教えてくれたもの。前後の状態から2010年7月28日から8月3日までの記録だと断定して良いと思う。あのときは下流のカマで作業していたから、覚えている。地図を見るだけで生きた心地がしない。（図中の⊕は、説明文と関りはありません）



C岩盤末端に連続する高い堤防。氾濫原に設置しているので、洪水時にはコーティ側に水が押しやられる。おまけにこちらは砂礫でなる脆弱な河岸、敵意ある堤防だ。コーティ側は「爆破する」などと息まき、物騒な意見も聞く。対策はこちらも高くする以外になく、この危急時に、ただ泣きの涙。2017年6月29日

